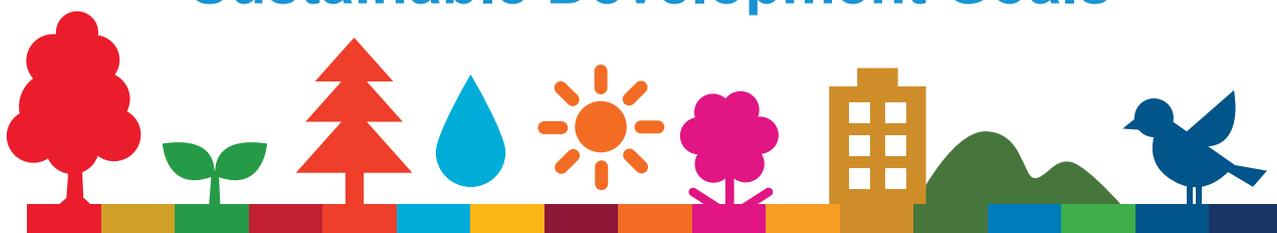


ふくしま みんなの

SDGs

Sustainable Development Goals



2025 - 2026

2025年度 活動紹介BOOK

＼もくじ／

SDGsとは	1
ふくしまSDGsプロジェクトとは	2
2025年度の活動	3-4
ふくしまSDGsプロジェクト推進コンソーシアム	5-9
プロジェクトパートナー	10-20
紙面連載「学校でSDGs」	21-27
作品ギャラリー	28-29
プロジェクトパートナー一覧	30

エスディージーズ / SDGsとは

Sustainable Development Goals



人類がこの地球で暮らし続けていくために、
2030年までに達成すべき目標です。

SDGsは英語の「Sustainable Development Goals (サステナブル・ディベロップメント・ゴールズ)」の頭文字を集めて略した言葉です。

日本語では「持続可能な開発目標」と訳されています。

最後の小文字の「s」は、目標が一つだけでなく、複数あることを示しています。

「持続可能」とは、将来にわたって続けられるということ。「開発」には成長や発達という意味も含まれています。SDGsとは、すべての人々が良い環境で生活し続けられるようにするための道しるべと言えます。

SDGsは2015年の国連サミットで各国のリーダーが決定しました。

17の開発目標があり、さらにより具体的な169の目標があります。「誰一人取り残さない」を合言葉に、2030年までの達成を目指しています。

国際的な目標といっても、社会を動かすには一人一人の行動が欠かせません。SDGsに無縁な人はいません。小さな心掛けが大きな力になります。

私たち一人一人の行動で世界が変わるはずです。
一緒に進んでいきましょう！



ふくしまSDGsプロジェクトとは

ふくしまSDGsプロジェクトは、福島県内の企業や団体、教育・行政機関などが連携し、2021年8月にスタートしました。活動母体の「ふくしまSDGsプロジェクト推進コンソーシアム」は、子どもたちがSDGsを理解し、身近な課題を見つけて解決策を探る環境づくりを中心に取り組んでいます。

≡SDGsを学ぼう≡

＼SDGsを学ぶ公開講座／

SDGsに取り組む団体・企業、国連関係者などによる公開講座を開催しています。

＼出前授業／

学校向けに出前授業を実施しています。授業料は無料。協力団体・企業から講師を派遣し、実際に学校に出向き授業を行っています。

＼SDGs関連ニュースの紹介／

公式WEBサイト上に、福島民報に掲載した最新のSDGs関連記事をアップしています。

≡SDGsに取り組もう≡

みんなのSDGs宣言募集とWEBサイト公開

SDGsの活動を学校教育に活用してもらうプログラムです。総合的な学習・身近な活動を通して児童・生徒に「持続可能な世界を築くにはどのようなことを行えばよいのか」を考える機会になります。

「SDGsポスター」「SDGs未来新聞」募集とWEBサイト公開

「未来をよくするために私たちにできること」をテーマに児童・生徒から作品を募り、公式WEBサイトで全作品を公開しています。



「私たちが目指す世界 子どものための『持続可能な開発目標 (SDGs)』」公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとの連携17の目標についてイラストを使ってわかりやすく解説しています。サイトからダウンロードし、学校の授業や企業などで活用していただけます。

県内のさまざまなSDGs活動紹介

4月に小冊子を発行し、県内の全小中学校、高校、大学、自治体に配布します。公式WEBサイトにもPDF版をアップします。学校や団体のSDGsの取り組みを紹介しています。

プロジェクトの詳細は公式WEBサイトへ 



 ふくしまSDGs

<https://sdgs.fukushima.jp>



2025年度の活動 — 2025.4~2026.3 —

SDGs出前講座

福島民報社やふくしまSDGsプロジェクトのパートナー企業・団体はSDGsに関わるさまざまな出前講座を行っています。福島民報社では、県内の小中学校、高校、大学などで新聞に親しむ出前授業を実施。SDGsの基本的ほか、SDGsに関する新聞記事の紹介、SDGsをテーマにした新聞作りの指導など、要望に応じて展開しています。



SDGsに関する記事の掲載

SDGsに関する記事にカットを付け、分かりやすく掲載しています。



2025年10月8日付福島民報朝刊

SDGs広告特集の掲載

毎月1回、ふくしまSDGsプロジェクトを紹介するPR特集を紙面掲載しています。プロジェクトパートナー企業、団体のSDGs達成に向けた取り組みなどを紹介しています。



2025年10月28日付福島民報朝刊

小冊子「ふくしま みんなのSDGs」の発行・配布

ふくしまSDGsプロジェクト推進コンソーシアムの構成団体や、パートナー企業・団体のSDGsの取り組みを紹介するA4サイズの小冊子を毎年4月に発行しています。県内の全小中学校、高校、大学、自治体に無料配布しています。



2025年3月27日付福島民報朝刊

みんなのSDGs宣言募集

ふくしまSDGsプロジェクトの公式ウェブサイトでは、「みんなのSDGs宣言」を募集しました。一人一人が未来を良くするために身近な課題を見つけ、解決に向けて行動を起こすきっかけ作りが目標です。寄せられた宣言はウェブサイトですべて閲覧できます。

冬は節電・節水を心掛けよう!
(福島市・20代女性)

自分のゴミに責任を持つ
(西会津町・70代女性)

性別などのさべつをなくそう!!!
(須賀川市・10代女性)

ゴミを減らして自然を守る
(鏡石町・10代男性)

これまで公式ウェブサイトに寄せられたSDGs宣言はこちらから!

ふくしまSDGs未来博

ふくしまSDGsプロジェクト推進コンソーシアムは2025年9月20、21の両日、郡山市のビッグパレットふくしまで「ふくしまSDGs未来博」を開催しました。「食」と「子ども」をテーマに約70の企業、団体、自治体、学校がブースを設けSDGsの取り組みを紹介したほか、ステージイベント、医療体験などをテーマにした健康関連コーナー、規格外果物で作った飲み物の販売、こども食堂支援のためのフードドライブ、自宅で遊ばなくなったおもちゃを持ってくると他のおもちゃと交換できるカエルマーケットなど多彩に繰り広げられました。



2025年9月22日付福島民報朝刊



多くの食品が届けられているフードドライブ



ステージを楽しむ多くの来場者



電気メスを体験した参加者



子どもたちの人気を集めた動く車

SDGs未来新聞・ポスター

ふくしまSDGsプロジェクトは、小中学生、高校生を対象にSDGs未来新聞&SDGsポスターを募集しました。「未来をよくするために、私たちにできること」をテーマに、児童、生徒から未来新聞189点、ポスター89点、合計278点の作品が寄せられました。同プロジェクト推進コンソーシアムにより審査が行われ、最優秀賞、優秀賞、福島県ユニセフ協会賞が選ばれました。受賞者は2025年9月に郡山市で開かれた「ふくしまSDGs未来博」の会場で発表され、後日、各学校で表彰式を行いました。

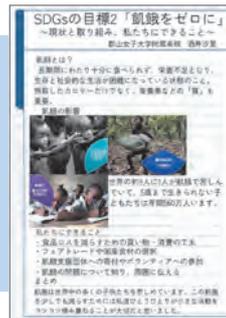
SDGs 未来新聞



最優秀賞 / 渡邊紗奈さん(郡山女子大付属高)3年



優秀賞 / 村田浩彩さん(郡山女子大付属高)3年



福島県ユニセフ協会賞 / 酒井汐里さん(郡山女子大付属高)3年

SDGs ポスター



最優秀賞 / 峯田秋羽さん(白河実業高)1年



優秀賞 / 野口陽菜さん(郡山女子大付属高)3年



福島県ユニセフ協会賞 / 齋藤柚羽さん(杉妻小)6年

応募作品はすべて「ふくしまSDGs未来博」の会場で展示されたほか、公式ウェブサイトでご覧いただけます。



[SDGs未来新聞]



[SDGsポスター]

公益社団法人日本青年会議所東北地区福島ブロック協議会

福島市大町2番5号 | Tel 024-528-1145
<https://www.jaycee.or.jp/tohoku/fukushima>

今年度はカーボンニュートラルの推進事業を 日本青年会議所主催で全国規模で行います

「青年会議所が選ぶ！ふくしまSDGs大賞」を開催SDGsに積極的な団体・個人を表彰し、認知拡大を狙った取り組み。SDGs出前授業（小学校・児童クラブ等）会員が訪問し、座学だけでなくクイズやゲームで楽しく学ぶ形で実施などをを行い、県内にて啓発活動を行っております。



福島県商工会議所連合会

福島市三河南町1-20 コラッセふくしま8階 | Tel 024-536-5511
<https://www.fukushima-cci.or.jp>

新たな時代に向けた経営支援強化

- 経営環境の変化に関する販路開拓・新事業創出、創業者支援
- 経営環境の変化に対応可能な「事業継続計画」の策定支援の推進
- デジタル活用による中小企業の体質支援強化
- 高等学校等との連携強化による若者の地元企業への就職促進
- 各地の魅力、強みを活かした交流・関係人口の拡大の推進



中小企業への経営支援強化



福島県商工会連合会

福島市三河南町1-20 コラッセふくしま9階 | Tel 024-525-3411
<https://f.do-fukushima.or.jp>

中小・小規模事業者のSDGsを 活用したビジネスモデルの推進

これまでSDGsを活用した企業経営を推進していくため、経営者らを対象に「SDGs経営戦略セミナー」を開催してきました。SDGsの概要や企業の取り組み事例を学び、理解を深めるとともに、SDGsに取り組みながら新たなビジネスチャンスにつなげていくことを目指しております。本会では今後も、県内企業のSDGs普及・推進に貢献していきます。



福島県ユニセフ協会

福島市仲間町4番8号 ラコパふくしま4F | Tel 024-522-5566
<http://unicef-fukushima.gr.jp>

ふくしまSDGs未来博で取り組みを紹介

2025年9月に郡山市で開かれた「ふくしまSDGs未来博」に、福島県ユニセフ協会もブースを出展しました。「SDGsルーレット」を展示したり、日本ユニセフ協会「親子で学べるSDGs（持続可能な開発目標）サイト SDGs CLUB（クラブ）」の動画を視聴いただいたりしました。また、県ユニセフ協会が支援する「ルワンダの教育を考える会」が、ルワンダのグッズやコーヒー・紅茶の試飲販売を行いました。





持続可能な開発のための2030アジェンダに賛同し、
その達成に向けて、事業・活動に取り組みます

各地で、地産地消をすすめよう!

地産地消:
その地域で生産された
農畜産物を、
その地域で消費しよう

例えば…

JAのファーマーズ
マーケットを利用
すると、新鮮な地
元の農畜産物に出
会うことができる



国消国産の実現!

国消国産:
国民が必要として消費する食料は、
できるだけその国で生産する

そのことによって…

- ・食料安全保障が確立
- ・食料自給率が向上
- ・農業生産力の強化が実現
- ・次世代の農業生産者の育成
- ・農業の多面的機能が維持・増進

SDGsにも貢献

- ・食材を長距離輸送する必要がなく、CO₂排出量の削減で“つくる責任”に貢献
- ・必要以上の食料輸入をしないことで、“飢餓をゼロに”に貢献



ふくしまSDGs推進プラットフォーム(福島県)

福島県では、多様な主体による連携・協働の機会を
創出し、SDGsを通じた本県の課題解決に向けた
広がり^{そくしん}と活性化を促進するため、その活動の場として
プラットフォームを設置し、取り組んでいます

当プラットフォームでは、イベントやセミナー等を通じ
て、会員の皆さんのSDGsの取り組みの発信やサポートを
行っています。

令和7年12月に開催した「ふくしま復興とSDGsを考
える県民シンポジウム2025」では、地域で活躍する方の事例
発表や登壇者によるトークセッションなどが行われまし
た。また、隣接する会場では、会員8団体がポスターセッ
ションを通じて来場者へ熱心に自分たちの取り組みを紹介
しました。

今後も、会員の皆さんの取り組みの発信やマッチング・
分科会の支援、セミナー開催などを通じて、県内のSDGs
の取り組みをさらに大きなうねりに繋げ、県内外の皆さん
とパートナーシップを深めながら本県の課題解決に向けて
取り組んでまいります。



ふくしま復興とSDGsを考える
県民シンポジウム2025の様子



ふくしまSDGs推進プラットフォーム
会員が来場者に取り組みを紹介



国立大学法人 福島大学

福島市金谷川1番地 | Tel 024-548-8012
<http://www.fukushima-u.ac.jp>

食料の安定確保と持続可能な農業の推進や森林の持続可能な管理や生物多様性損失の阻止、廃棄物・ゴミの3R(減量・再利用・リサイクル)を促す社会の仕組みづくりに努めたい

本学では、再生可能エネルギーの地産地消ふくしまモデルを創出しカーボンニュートラルの実現に貢献するため、食料や森林・水環境の持続可能性に関する研究開発や人材育成に取り組んでいます。



また、廃棄物・ゴミの3Rを促す社会づくりや人感センサーを用いた節電、トイレ洗浄水へのリサイクル水活用などにも取り組んでいます。



公立大学法人 会津大学

会津若松市一箕町鶴宮 | Tel 0242-37-2510
<https://www.u-aizu.ac.jp>

AI、IoT、ブロックチェーン、メタバース等の先進的な情報通信技術は、さまざまな領域において持続可能な社会の構築に貢献できます

ICTは医療・教育から産業開発まで、あらゆる分野における基盤技術です。会津大学はコンピュータ理工学の高学教育・研究機関として、



会津大キャンパス

SDGsを念頭に置いて、AIによる医療支援や再生可能エネルギーの活用、若手・女性のデジタル人材育成、宇宙探査への貢献など、幅広い分野における質の高い教育と技術革新を通じて、地域社会・国際社会の持続可能な発展に寄与しています。



公立大学法人福島県立医科大学

福島市光が丘1 | Tel 024-547-1111
<https://www.fmu.ac.jp>

「すべての人に健康と福祉を」
 県民の「健康」の維持・増進に取り組んでいます

保健、医療、福祉等の分野で活躍する医師、看護師、医療技術者を育成し、高度な医療機器・技術を用いた診療の提供により県民の健康維持・増進に貢献しています。



また、コミュニティにおける高齢化率の上昇や慢性疾患の増加などに対応する専門医療技術者の取り組みなど、地域医療への「持続可能な」取り組みを通して、本学ならではの役割を担ってまいります。



福島学院大学

福島市宮代字乳児池1-1 | Tel 024-553-3221
<https://www.fukushima-college.ac.jp/sdgs/>

地域に根ざした教育・研究と学院の運営を進め、持続可能で活力ある地域社会の創造に向けた人材育成を通じて、SDGsの目標達成に貢献します

地域の方々と連携した学生によるイベントの企画・運営などの持続可能な地域社会づくりの取り組みや小児がん支援企画などの学生の実践による共生社会実現への取り組み、近隣小学校児童への読み聞かせを実践する他、地域社会の一員として多くの人と繋がり、教育成果を社会へ還元するため、様々な自治体や企業との包括的連携協定を締結し、地域振興や活性化に向けた課題解決に積極的に取り組んでいます。



≡ 桜の聖母短期大学 ≡

福島市花園町3-6 | TEL 024-534-7137
<https://www.sakuranoseibo.jp>

見て聞いて話して考えて、実行するSDGs

東日本大震災直後から始まった『福島学』は、まだ復興の途中である福島の町や村に行き、そこで暮らす人たちの話を聞き、みんなで話し合っ、福島の人たちが困っていることの解決策を考えたり、実際にやってみたりする授業です。授業に参加する学生の数だけ、解決の方法があり、一人ひとりが自分で考えて、できることを行います。



≡ 日本大学 工学部 ≡

郡山市田村町徳定字中河原1番地 | TEL 024-956-8727
<https://www.ce.nihon-u.ac.jp>

「もしも」に備え、「むだ」をなくす取り組み

防災備蓄品の賞味期限切れによるフードロス削減を目的に、「防災備蓄品の賞味期限切れによるフードロス削減プロジェクト」を実施しています。

日本大学工学部でオープンキャンパス実行委員会が中心となり、公益社団法人 日本非常食推進機構の協力のもと、非常食の有効活用や啓発活動を行い、学生と地域をつなぎSDGsの達成に貢献します。



≡ 郡山女子大学・郡山女子大学短期大学部 ≡

郡山市開成3-25-2 | TEL 024-932-4848
<https://www.koriyama-kgc.ac.jp>

環境保全や地域振興、DX教育に尽力

環境に配慮した森林保全や温暖化防止などの活動を通しエコマインドを持った学生と附属高校生を育てています。また、地域の産業振興につながる食品開発等にも尽力。附属高校では文部科学省のDXハイスクールの採択を受け、プロジェクションマッピング制作やメタバース体験など質の高い教育を目指しています。



郡山公会堂で披露した附属高校生制作のプロジェクションマッピング



≡ 福島県生活協同組合連合会 ≡

福島市仲間町4番8号 ラコパふくしま4F | TEL 024-522-5334
<http://fukushima.kenren-coop.jp/>

2025国際協同組合年

【地区別「食」に関する相互理解と交流事業企画】

2025国際協同組合年を記念して、県北、会津、いわきの3エリアで、各地域の生協、JA女性部、漁協女性部の3団体合同で、「会津各地域の食傾向と食育活動」（会津）、「正しい理解で健康に」（いわき）、「発酵食品について」（県北）をテーマに、交流会を開催しました。



～ふくしまの課題解決をみんなの手で～

未来の子どもたちのため、持続可能な社会実現を

記事や広告など新聞紙面を通じて、県内各地のSDGsの取り組みを紹介しています。

2025年9月には、事務局を担う「ふくしまSDGsプロジェクト推進コンソーシアム」の主催で、3回目となる「ふくしまSDGs未来博」を郡山市のビッグパレットふくしまで開催しました。来場した多くの県民が楽しみながらSDGsに理解を深めました。



SDGsの実現を誓った未来博のステージ



寄せられた食品を
ふくしま子ども食堂ネッ
トワークへ託した贈呈式



フードドライブ「笑顔の広場」



福島民報社と福島放送が締結しているSDGs連携協定の一環として、夏と冬にフードドライブ「笑顔の広場」を実施しました。2025年7、8、9月に実施したフードドライブには、両社の呼びかけで県内43の企業・団体・教育機関が賛同しました。各事業所などで従業員に食品の寄贈を募り、段ボール107箱分と米162kgの食品が寄せられました。集まった食品は「ふくしま子ども食堂ネットワーク」を通じ、県内の子ども食堂に届けられました。

夏のフードドライブに協力いただいた企業・団体は次のとおりです。

アイクリーン、会津ガス、会津乗合自動車、アイネット、会和工務店、あだたらアグリサービス、あだたらの里直売所、あぶくま信用金庫、アルファ電子、E.メンタル福島、一休さん大黒堂、陰山建設、クラシマ、グリーンレンタル、こころネットグループ、こんの、佐藤クリーニング、JA福島五連（JA福島中央会、JA全農福島、JA共済連福島、JA福島厚生連、農林中央金庫福島支店）、シマキュウ会津支店、松月堂、城北化学工業、常陽経営、須賀川市役所、大久自動車販売、大樹生命保険会津支社、大和ハウス工業福島支店、TSC、東北コピー販売、日本生命保険福島支社、バンブージャパン、丸峰観光ホテル、目黒工業商会、弓田建設、リコージャパン福島支社、若松ガス、若松幼稚園（五十音順）

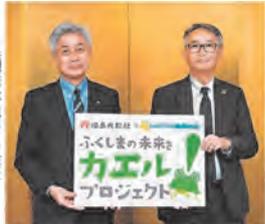
KFB連携

SDGsの目標達成年である2030年、そしてその先の未来を見据えた新プロジェクト「ふくしまの未来をカエルプロジェクト」が始まりました。本プロジェクトは「未来をかんガエル（Reduce・削減）」「まだつかえる（Reuse・再利用）」「よみがえる（Recycle・再生）」を念頭に、循環型社会の実現を目指して、県民の意識改革を推進します。



◀ふくしまの未来をカエルプロジェクト ロゴマーク

民報社 × KFB



未来をカエルプロジェクト

1月始動
ごみの排出量減
リサイクル推進

本報は、令和4年度に「未来をかんガエルプロジェクト」をスタートし、今年1月からの取り組みとして、ごみの排出量削減とリサイクル推進をテーマに、県民の意識改革を推進します。本報は、令和4年度に「未来をかんガエルプロジェクト」をスタートし、今年1月からの取り組みとして、ごみの排出量削減とリサイクル推進をテーマに、県民の意識改革を推進します。

循環型社会実現へ

▶2025年10月8日付福島民報朝刊

株式会社 東邦銀行

福島市大町3-25 | TEL 024-523-3131(代表) | <https://www.tohobank.co.jp>



金融リテラシーの向上と地域スポーツ振興への取り組み ～「福島県の未来を担う子どもたちへ」～



陸上教室



プロスポーツ応援

当行グループでは2024年度より「サステナビリティ宣言」を掲げ、地域の持続的な成長の実現に向けた取り組みを進めております。2025年度は宣言における「地域経済・社会の活性化」「少子高齢化への対応」「多様な人材の躍動」の取り組みとして、地域で学ぶ学生と協働し、身近な生活に即したテーマを通じて親子が楽しみながらお金や社会の仕組みを学ぶ、親子マネースクールを開催しました。また、地域スポーツ振興を通じた地域貢献として、世界でも活躍するトップアスリートが所属する当行陸上競技部による陸上教室を開催し、子どもたちに運動の楽しさや挑戦することの大切さを伝え、福島県の未来を担う子どもたちの健やかな成長を支援しています。

当行主催の金融教室や学校等への出前授業を通じて、小・中・高・大学生に加え、社会人、シニアも対象とした地域の金融リテラシー向上により一層取り組んでまいります。また、陸上教室の開催や地域プロスポーツを銀行全体で応援する活動を継続し、地域に根差したスポーツ文化の発展に貢献してまいります。今後も地域とともに歩む金融機関として、持続可能な地域社会の実現を目指してまいります。

- 1 貧困をなくそう
- 2 健康をこころに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を實現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 人や国の不平等をなくそう
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう





高校生に向けたイベント **サステナブル・ブランド** スチューデント・アンバサダープログラムを実施しています



高校生視点で社会課題を解決する



東北各地の高校生が持続可能な社会づくりに向けて意見を交わす

サステナブルな社会の実現に向けて、次世代を担う高校生(中学生)の学びをサポートしています。

高校生に企業や他校生と一緒にSDGsを考えてもらう機会として「スチューデント・アンバサダープログラム(SBSA)東北ブロック大会」や、サステナビリティを学ぶことを目的として、地域が抱える社会課題を知るだけでなくその解決に向けた取り組みを体験して学んでいく、探究学習型教育旅行「GREEN JOURNEY for school」などを実施しています。

高校生の皆様、「スチューデント・アンバサダープログラム東北ブロック大会」に参加してみませんか？

東北各地から集まった高校生が、東北で活躍する企業の話聞きながら、オピニオンリーダーのファシリテートのもと、ディスカッションを行います。

2026年は仙台で実施予定です。高校生の皆様のご参加をお待ちしております。詳しくはお近くの日本旅行東北までお問い合わせください。

福島支店 024-522-6161





福島の豊かな自然・暮らし・営みを未来につないでいくために SDGsに取り組み、県民の皆様のその重要性を伝えていきます



KFBまつりで実施した「カエルマーケット」ブース。
たくさんのぬいぐるみや玩具が集まりました！



8月24日(日)に開催された
「高血圧予防・改善セミナー in 会津若松」

福島放送では、持続可能な社会の実現に向け、各種SDGs推進活動に取り組んでいます。2025年度は血圧予防を目的としたイベントや環境美化とスポーツを融合した「スポGOMI in 郡山」を開催した他に、8月開催の「SDGs未来博」および10月開催の「KFBまつり」において、福島民報社様と共同で「カエルマーケット」を実施しました。これは、2026年1月より開始の「ふくしまの未来をカエルプロジェクト」の一環として位置づけており、家庭で使用されなくなった玩具や絵本を来場者に持ち寄っていただき、他の参加者と交換することでリユースを促進し、ごみの減量化とリサイクル意識の向上を図る取り組みです。両イベントとも多くの方に参加いただき、循環型社会への理解を深めていただく機会となりました。

今後も福島放送では番組やこうしたプロジェクトを通して、地域と共創するSDGs推進活動をさらに強化してまいります。またイベントで得た知見を活かし、社会への貢献を継続するとともに、社内研修や啓発活動を通じて、社員一人ひとりの行動変容につながる取り組みを続けてまいります。





半世紀前からSDGs 自動車のリサイクルから環境・自然との 持続可能な共存を目指します

キャレックは、創業51周年。創立時から自動車リサイクルを行い、確かな作業・精緻な技術で環境保全・資源循環に貢献しております。

働く社員さん一人ひとりがいきいきと働けるよう、人材育成に注力し、労働環境を整備しております。

工場には太陽光発電システムを搭載し、再生エネルギーの有効活用及びCO₂削減を進めております。

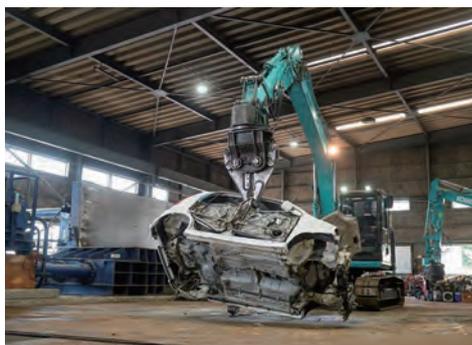
自治体との連携で事故車両を使ったレスキュー訓練への協力を毎年行っております。

2026年からは自動車プラスチックの再利用も積極的にスタート。

様々な素材の「CAR TO CAR」を目指し、自動車のリサイクルでは、「廃棄物ゼロ・リサイクル率100%」を目指して進めます。



再生可能なパーツを廃車から取り出し、ストックしている倉庫



重機で効率的な資源分別



こくみん共済coop 福島推進本部 (福島県労働者共済生活協同組合)

福島市荒町1-21 協働会館内 | TEL 024-521-3390 | <https://www.zenrosai.coop/contact/zenkoku/fukushima.html>



当会の理念のもと、誰一人取り残さない社会づくりをめざしながら、 SDGsの達成に貢献していきます

こくみん共済coopは、創立以来、組合員・協働団体・労働組合組織・協同組合組織などの仲間とともに、共済の普及と社会課題の解決に取り組み、「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」を進めてきました。これは、誰一人取り残さない社会づくりをめざす、SDGsに通じるものです。格差の拡大や大規模自然災害の増加など、取り巻く環境が厳しさと難しさを増すなか、たすけあいの輪をむすぶ私たちの役割と期待をあらためて認識し、SDGsの達成に貢献します。



2024年度ふくしまSDGs未来博にブース出展





DX推進による 働きがいのある職場づくりと 環境負荷低減を同時に実現

東北コピー販売は、複合機やIT機器の提供に加え、業務そのものに踏み込むDXの推進を続け、持続可能な企業づくりに取り組んできました。

自社の業務改善から「ペーパーレス・キャッシュレス・印鑑レス・業務レス」の4つのレスを実現し、業務のデジタル化・見える化を推進。紙やムダな作業を減らし、生産性向上と環境負荷低減、働きやすい職場環境の実現しました。その成果を地域企業にも展開し、DX推進の支援をしています。

データ活用・AIも含めたDXを加速させ、自社のノウハウを地域企業に展開し、お客様に「ちょうどいいDX」の支援を進めます。DXの伴走者として、福島から持続可能な地域経済と働き方の実現に貢献していきます。



社内ペーパーレスオフィス



全国ワークスタイル変革大賞2025
受賞歴



地域のパートナーと協働し、地域課題の解決に向けて、 より良い未来をともに考え、行動する多様な取り組み

JTは、パートナーシップを基盤とした「Rethink PROJECT (リシンク・プロジェクト)」を通じ、「格差是正」「災害分野」「環境保全」への貢献を目指した活動を展開しています。福島県では、清掃活動「ひろえば街が好きになる運動」を2025年に5回実施し、多くの方とともに街をきれいにする取り組みを行ってきました。

また、「格差是正」の分野では、郡山市障がい福祉課と協働し、地域福祉の可能性について考えるMm PROJECT郡山セミナーを開催しました。

「Rethink PROJECT (リシンク・プロジェクト)」を軸に、地域イベントへの参加や行政・団体との連携を深め、地域に寄り添った活動を継続し、社会貢献と対話を大切にしながら取り組んでいきます。



2025年5月31日開催 郡山市開成山公園周辺の「ひろえば街が好きになる運動」の様子



Mmプロジェクトセミナー





サステナブルな未来へ向かって、 パルシステムは地域の皆様と共に SDGsに取り組んでまいります

パルシステム福島では3R《リデュース、リユース、リサイクル》の普及に取り組んでいます。この3RにはCO₂削減の効果があり、地球温暖化の抑制につながります。お醤油などの調味料の他、約50種類の商品にくり返し利用のできるリユースびんが使われています。使用後のびんは、宅配の仕組みを生かして回収し、洗浄工場へ送られます。そこできれいになったびんが各メーカーへ届けられ、再び新しい製品に生まれ変わります。

パルシステム福島は、生産から加工、流通、消費、廃棄に至るまで限りある資源の効率的な利用や3Rの取り組みを進めることにより、環境への負荷を可能な限り減らした循環型社会の実現を目指していきます。



パルシステムで使われているリユースびん



持続可能な社会づくりのために クリーンエネルギーの安定供給を目指し、 責任をもって地域社会に貢献します

全国で太陽光発電所、ソーラーカーポート、大型系統蓄電所を開発・運営し、カーボンニュートラルと電気供給の安定化に取り組むとともに、エネルギーの地産地消や災害対応力向上にも貢献します。会津若松市を拠点に地方自治体と協力し脱炭素先行地域計画を推進しております。再生可能エネルギー事業を通じて、持続可能な未来に向けた活動を展開しています。

「令和6年度系統用蓄電池・水電解装置導入支援事業」に採択され、会津若松市で大型蓄電所の開発・運営を行います。余剰電力を蓄電池に蓄え、災害時等に蓄電池の電力から供給し、再生可能エネルギーの有効活用と災害対応力向上を目指します。



喜多方市で実施している屋根置太陽光とソーラーカーポート



会津若松市で建設を予定している会津若松蓄電所の完成予想図





エネルギーの最適化と効率化を図りながら、 気候変動や自然災害への強靭性を備えた公共交通を目指します

福島交通は、バスや列車の電化およびネットワークの省エネ化によるエネルギーミックスの最適化とエネルギー効率の改善を図りながら、自然災害に強い公共交通を目指すと同時に、利用しやすい環境を整えることで、県民の健康維持と自動車事故の削減につなげます。また、交通産業や観光業に従事する人たちの働きがいを創出し、所得改善を継続的に取り組むほか、自治体や地域の企業・団体などとのマルチステークホルダー、パートナーシップにより地域の移動を支え、促し、創造することを志します。



ふくしまSDGsプロジェクトのロゴをデザインしたNORUCAカード



SDGs17の目標

- | | | |
|---|---|---|
| <p>1 貧困をなくそう
あらゆる場所、あらゆる形態の貧困を終わらせる</p> | <p>2 飢餓をゼロに
飢餓を終わらせ、食料の安定確保と栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する</p> | <p>3 すべての人に健康と福祉を
あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する</p> |
| <p>4 質の高い教育をみんなに
すべての人々に、誰もが受けられる公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する</p> | <p>5 ジェンダー平等を実現しよう
ジェンダー平等を達成し、すべての女性・女児が能力を発揮できるようにする</p> | <p>6 安全な水とトイレを世界中に
すべての人々が水と衛生施設を利用できるようにし、持続可能な管理を確保する</p> |
| <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
すべての人々が、手ごろな価格で信頼できる持続可能な近代的なエネルギーを利用できるようにする</p> | <p>8 働きがいも経済成長も
すべての人々のための持続可能な経済成長、完全かつ生産的な雇用、働きがいのある人間らしい仕事（ディーセント・ワーク）を促進する</p> | <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう
強じん（レジリエント）なインフラを構築し、誰もが参画できる持続可能な産業化を促進し、イノベーションを推進する</p> |
| <p>10 人や国の不平等をなくそう
国内および各国間での不平等を是正する</p> | <p>11 住み続けられるまちづくりを
すべての人々が、手軽な価格で信頼できる持続可能な近代的なエネルギーを利用できるようにする</p> | <p>12 つくる責任 つかう責任
持続可能な消費・生産形態を確保する</p> |
| <p>13 気候変動に具体的な対策を
気候変動とその影響を軽減するための緊急対策を取る</p> | <p>14 海の豊かさを守ろう
持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する</p> | <p>15 陸の豊かさも守ろう
陸の生態系の保護、回復および持続可能な利用の促進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止と回復、生物多様性の損失防止を図る</p> |
| <p>16 平和と公正をすべての人に
持続可能な開発に向けて平和で誰をも受け入れる社会を推進し、すべての人々が司法を利用できるようにし、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任があり、誰も排除しない仕組みを構築する</p> | <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう
持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化化する</p> | |

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

≡あぶくま信用金庫≡



(本部) 南相馬市原町区栄町2-4 Tel. 0244-23-5132 | (本店営業部) 南相馬市原町区栄町2-15 Tel. 0244-23-5131 | <http://www.abukuma.co.jp>

金融機関の役割を生かしSDGs実現につながる投資、まちづくり、人材育成に努めます

南相馬市原町区の本店営業部あぶしんふれあい館は、福島県産材を使った耐火木質ハイブリッド集成材を活用、二酸化炭素(CO₂)の排出削減を図るなど環境に配慮しています。また1階の営業窓口、2階の金融相談窓口に加え3、4階はホールやギャラリー、ミーティングルーム、コミュニティスペースを備え、地域経済の発展と人的交流の場としての役割を果たしてまいります。企業版ふるさと納税を活用した寄付、タブレット端末を活用した窓口業務によるペーパーレス化、全職員挙げてのフードドライブやフードバンク事業への協力などにも力を入れています。



地域活性化の場にも活用している
本店営業部あぶしんふれあい館



≡株式会社 こんの≡



福島市陣場町2-20 | Tel. 024-524-2345 | <https://www.konno.gr.jp>

お客様と社員の物心両面の豊かさを追求し、地球環境を最優先に考え行動する企業です

株式会社こんのはSDGs推進の代表的取組として、障がい者雇用と職場環境整備を進め、厚生労働省「もにす認証」を取得しました。加えて、環境展示会への出展、女性活躍を促す研修制度、地域連携、人材育成を通じ、持続可能な社会と企業価値の向上に取り組んでいます。



2024年度ふくしまSDGs未来博にブース出展



≡株式会社 桜エンジニアリング≡



郡山市島一丁目22番30号 | Tel. 024-953-6830 | <https://www.sakura-gr.co.jp>

インフラ長寿命化及び災害に耐え得るインフラ整備、災害への迅速な復旧対応を通して 住み続けられるまちづくりを行います。様々な不平等を無くし多様性を尊重します

災害に耐え得る安全なインフラ設計を行うとともに、インフラの老朽化問題に取り組み、多種多様なインフラ点検を実施し、補修補強設計等の長寿命化の提案を行っています。

また、自然の持つ機能を賢く利用するグリーンインフラによる水質浄化研究に取り組んでいます。性別による格差や不平等の撤廃のため、女性の管理職への登用や全職域就業を支援しています。さらに、全社員の賃金向上を常に目指し、資格取得支援やリモートワーク、短日短時間勤務の実施、また社員の健康を考えた食事やスポーツ施設の提供等、フェアで多様性に対応した持続可能かつ楽しい会社作りを実施しています。社会インフラを未来に引き継ぐことを使命とし、まち、人、毎日の安心を支えます。



高速道路の補修設計や巨大地震に備えた耐震補強設計などを行っています(東京外環自動車道等)



≡ 損害保険ジャパン株式会社 福島支店 ≡

郡山市堂前町6-4 郡山堂前合同ビル7階 | TEL 024-991-8233 | <https://www.sompo-japan.co.jp>



地域・社会の皆さまの「安心・安全・健康」な暮らしを支える 保険会社としてSDGsの取り組みを推進します

損保ジャパンは福島県、福島市、郡山市、いわき市、会津若松市と包括連携協定を締結しており、地域の安心・安全をお届けするための取り組みを福島県と連携して進めてまいります。また、SDGsの必要性についての理解を深めることを目的とした「SDGsカードゲームワークショップ」の提供や、防災について学び・体験する場を提供する「防災ジャパンプロジェクト」を開催するなど、SDGs推進について取り組んでいます。過去にも福島民報社、郡山市役所などでSDGsカードゲームのワークショップを開催しました。参加者は仮想の町「みんぼうタウン」の住人となり、2030年の「みんぼうタウン」が持続可能な地域社会になるための取り組みを進め、カードゲームを通してSDGsへの理解を深めました。損保ジャパンでは、今後も県内の企業、団体、学校でカードゲームを使ったワークショップを展開していきます。



郡山市役所にて行われたSDGsカードゲームの様子



≡ 株式会社 高良 ≡

南相馬市原町区深野字入龍田117-7 | TEL 0244-22-7111 | <https://www.takaryo.co.jp>



「地域社会貢献から地球環境をより良くする」をテーマに、 循環型社会をリードしていく企業として、SDGsに取り組みます

1913年の創業以来、一貫したリサイクル業としてその時代の社会のニーズに応え、金属・紙産業を核とし、リサイクル品の集荷、選別、加工、販売と精力的に活動しております。当社では、資源・廃棄物を軸とし、エネルギー・大気・水・生物多様性・製品・人事労務・地域社会を加えた9分野を重点的取り組みとしています。例えば、2030年までに現状から10%のリサイクル率の向上を目指しております。今後も地域社会活動に伴うあらゆるリサイクル原料になり得るものと廃棄物を適正処理することにより、SDGsが目指す持続可能な世界の実現に貢献してまいります。



株式会社高良の本部エコプラザ



≡ 株式会社 トーホク ≡

会津美里町字宮里97番地1 | TEL 0242-85-8566 | <https://tsc-Tohoku.com>



明るい未来社会の実現へ環境に配慮した事業に取り組み、 エネルギーの最適化・効率化を図ります

大型ダンプによる建設資材運搬・土壌運搬、トンネル工事事業を展開し、運送と建設事業で福島県に貢献します。大型ダンプは計75台所有し、骨材の運搬、建設現場での資材運搬、土壌運搬をしています。排出ガスに含まれる有害物質を処理する装置が搭載されたクリーンディーゼルエンジン車両を積極的に導入し、二酸化炭素や窒素化合物など有害ガス排出の削減に力を入れています。トンネル工事では地球環境の保全・保護を重視する施工法に取り組んでいます。



環境に配慮した車両を積極的に導入している



≡ 東和株式会社 ≡

本宮市本宮字館町2-1 | TEL 0243-34-2718 | <https://ameltis-duvet.jp>



熱水で溶ける糸「AMELTIS®」を活用した再資源化技術の確立を通じて、サーキュラーエコノミーの実現を推進してまいります

制服などの衣服を製造する当社は、繊維産業におけるサーキュラーエコノミーの実現を目指し、10年以上の歳月をかけて熱水で溶ける縫い糸「AMELTIS®」を開発しました。不要になった製品を熱水に浸すだけで縫い糸が溶け、各パーツに美しい状態で分解できるため、リサイクル工程を大幅に効率化します。現在はこの技術を羽毛布団の再資源化にも応用し、羽毛や側生地などの天然資源の再利用を促進。限りある資源を循環させ、持続可能なものづくりの実現に挑戦しています。



熱水により分解された羽毛布団「AMELTIS®」



≡ 株式会社 Pur nanala ≡

いわき市常磐水野谷町竜ヶ沢128-2 | TEL 0246-51-8461 | <https://pur-nanala.com>



プアナーラはカーボンニュートラルに向け、全ての新築住宅をZEH化で提供し続けることを宣言します

環境に優しい家づくりを目指すプアナーラでは省エネ性能の基準を示す「BELS評価」を全棟実施しております。「プアナーラSDGs宣言」に基づき、全てのお客様に高性能住宅の提案を行っております。地球温暖化への取り組みにはエネルギー収支をゼロ以下にする「ZEH」住宅を普及することも重要です。高気密高断熱住宅にすることで、日々の光熱費を抑えることができ、太陽光パネルや蓄電池を併用することでゼロエネルギー住宅を実現出来ると考えております。



プアナーラのゼロエネルギー住宅外観写真



≡ 株式会社 報徳観光バス ≡

郡山市南2丁目50 | TEL 024-983-8222 | <https://hotoku-koriyama.com/detail/160/index.html>



地域の皆様と共に社員一丸となって、SDGs達成のための活動に取り組んでまいります

報徳観光バスは、SDGs達成に向けた活動として、乗務員、事務スタッフ含め全社員が参加して、定期的に研修や清掃活動に取り組んでいます。

令和7年度は11月に、郡山市安積町の国道4号沿いの歩道のごみ拾いを実施しました。

お世話になっている地域への恩返しと社員の意識向上にもつながり非常に良い時間を過ごすことができている。これからも環境に配慮した事業運営と地域をきれいに保ち、大好きなふくしまをいつまでも大切にしていきます。



清掃活動をはじめとする地域貢献に積極的に参加する報徳観光バス



≡みちのく陸運株式会社≡

福島市飯坂町平野字若狭小屋14-6 | Tel. 024-557-5145 | <https://www.michinoku-exp.com>



物流を通して社会に貢献し、豊かな地域と未来を創る

持続可能な未来への貢献を目指し、当社ではエコドライブの徹底、低公害車や太陽光発電、EV車導入によりカーボンニュートラルの実現を推進しています。

CO₂排出量を可視化する「e-dash」を導入し、削減に取り組みやすい環境を整備しております。

また、DX推進チームによる業務効率化を図り、排出ガスのさらなる削減と、強靱で持続可能な物流ネットワークの構築に努めています。



エコドライブを徹底し、環境保全に積極的に取り組んでいます



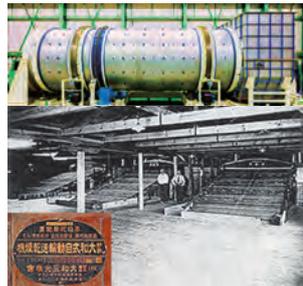
≡株式会社 大和三光製作所≡

西白河郡矢吹町堰の上351 | Tel. 0248-42-5601 | <https://www.yamato-sanko.co.jp>



高度な乾燥・熱処理技術で世界中にキレイな価値をつくりだし、地球のみらいと人々の暮らしを幸せにします

当社は乾燥機、熱処理装置の開発製造を行っている創業110年の会社です。まだSDGsという言葉がない時代より排熱の再利用等、積極的に推進してまいりました。昨今では水素やバイオマス等再生可能エネルギー分野において、熱処理技術を応用した研究開発を大学や他企業とのリレーションのもと福島県で推進中です。当社事業自体が地球環境へも影響があることを認識しつつ、パーパスでも謳っているとおり、世界中にキレイな価値をつくりだすべく、社内外においてSDGsテーマのイベント事業や各種プロモーションを展開中です。



当社オーダーメイドの乾燥装置(下は約100年前に富岡製糸場へ納入)



FUKUSHIMA SDGs

新年の抱負は みんなのSDGs宣言で! 募集中!!

国連の持続可能な開発目標 (SDGs) の実現には一人一人が未来を良くするために身近な課題を見つけ、解決するために行動を起こすことが大きな第一歩になります。

ふくしまSDGsプロジェクト推進コンソーシアム公式ウェブサイト
「みんなのSDGs」宣言を随時受け付けています。
皆さんの「SDGs宣言」をぜひお寄せください!!

ふくしまの課題解決をみんなの手で FUKUSHIMA SDGs

「みんなのSDGs宣言」のご応募と詳細はこちらから随時募集しています!!

安全・安心に暮らせる世界にする!
(会津坂下町・10代男性)

みんながおんなじ綺麗な水を飲めるように
(須賀川市・10代女性)

地球温暖化への取組 脱炭素社会の実現
(南相馬市・40代男性)

差別や偏見のない社会に向けて自分なりに取り組む
(福島市・20代男性)

冬は節電・節水を心掛けよう!
(福島市・20代女性)

ゴミを減らそう
(福島市・60代女性)

不法投棄などをしないでゴミをしっかりと分別していく
(石川町・10代男性)

プロジェクトの詳細は公式ウェブサイトへ

<https://sdgs.fukushima.jp>

性別などの差別をなくそう!!!
(須賀川市・10代女性)



花に水を与える児童

古紙、キャップ回収

総合的な学習の時間を活用し、4年生は「未来につなげよう」をテーマにSDGsの基礎を学んでいる。校内を歩き回り、学校で実



陸の豊かさを守ろう



つくる責任つかう責任

一箕小(会津若松)児童61人



活動を展開している。環境委員会は古紙を回収し、ボランティア委員会はペットボトルキャップを収集して、園芸委員会は花を手入れし、給食委員会は牛乳パックの再利用を児童に呼びかけている。園芸委員会の野辺日菜子さん(5年)は「昨年の学習を生かしたい」と意気込む。今年も生ごみを肥料にすることに挑戦したいと話している。

福島放送(RFBS)「エアール」午後4時台放送予定

①貧困をなくそう②飢餓をゼロに③すべての人に健康と福祉を④質の高い教育をみんなに⑤ジェンダー平等を実現しよう⑥安全な水とトイレを世界中に⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに⑧働きがいも経済成長も⑨産業と技術革新の基盤をつくろう⑩人や国の不平等をなくそう⑪住み続けられるまちづくりを⑫つくる責任つかう責任⑬気候変動に具体的な対策を⑭海の豊かさを守ろう⑮陸の豊かさを守ろう⑯平和と公正をすべての人に⑰パートナーシップで目標を達成しよう



サツマイモの苗を植える児童

サツマイモ栽培挑戦

猪苗代湖や学校付近を流れる笹原川の水質調査に励む。身近な水環境を知り、自然を守るための知識を学んでいる。



安全な水とトイレを世界中に



飢餓をゼロに

三和小(郡山市)児童45人



生息している生物を捕まえず、ごみを捨てない意識を高めている。食べ物の大切さを知ろうと、1・3年生はサツマイモの栽培に挑戦。苗を植え、収穫したサツマイモを自宅に持ち帰っている。学校は校内の昇降口周辺にごみ箱を設置し分別を促している。青木明恵さん(6年)は「猪苗代湖の清浄は大変だったが、環境保全に貢献できうれしい」と胸を張る。

福島放送(RFBS)「エアール」午後4時台放送予定

毎年5月学年が取り組む猪苗代湖では計6カ所を調査し、場所によって水質の違いを理解を深めている。笹原川では、川に入り、採取した水生生物を基に水質を調べる。きれいな川にするヒシの回収も行っている。

①貧困をなくそう②飢餓をゼロに③すべての人に健康と福祉を④質の高い教育をみんなに⑤ジェンダー平等を実現しよう⑥安全な水とトイレを世界中に⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに⑧働きがいも経済成長も⑨産業と技術革新の基盤をつくろう⑩人や国の不平等をなくそう⑪住み続けられるまちづくりを⑫つくる責任つかう責任⑬気候変動に具体的な対策を⑭海の豊かさを守ろう⑮陸の豊かさを守ろう⑯平和と公正をすべての人に⑰パートナーシップで目標を達成しよう



ブックカフェで提供するコーヒーをいれる生徒

JRC委員会を中心に自発的な活動を繰り返している。災害被災地や貧困国の支援が目的で取り組んでいる。ルワンダ産のコーヒーや紅

助け合いの輪広げる

JRC委員会を生涯会や購買委員会と連携し、校内放送を通して購入を呼びかけている。生徒や教職員が一丸となりフードロス削減に取り組んでいる。



つくる責任つかう責任



貧困をなくそう

白河実高(白河市)生徒533人



が売れ残りそうな場合、JRC委員会は生涯会や購買委員会と連携し、校内放送を通して購入を呼びかけている。生徒や教職員が一丸となりフードロス削減に取り組んでいる。JRC委員長の北郷匠さん(3年)は「助け合いの輪を広げ、地域や世界のためになる活動を推進する」と話している。

福島放送(RFBS)「エアール」午後1時台放送予定

茶などを取り寄せ、生徒や教職員に振る舞っている。地元企業が製造した菓子も販売し、収益金を寄付している。校内で販売しているパン

①貧困をなくそう②飢餓をゼロに③すべての人に健康と福祉を④質の高い教育をみんなに⑤ジェンダー平等を実現しよう⑥安全な水とトイレを世界中に⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに⑧働きがいも経済成長も⑨産業と技術革新の基盤をつくろう⑩人や国の不平等をなくそう⑪住み続けられるまちづくりを⑫つくる責任つかう責任⑬気候変動に具体的な対策を⑭海の豊かさを守ろう⑮陸の豊かさを守ろう⑯平和と公正をすべての人に⑰パートナーシップで目標を達成しよう



パッケージのデザインを話し合う生徒ら

地元食材で商品開発

家庭クラブが地元食材をい。使った商品開発に取り組ん。原発事故の風評を払拭している。東日本震災と東しよと3年前から始まった。0のち(令和7)年被災地の活性化貢献して度は、いわき市産のイチゴ



つくる責任つかう責任



住み続けられるまちづくりを

磐城桜が丘高(いわき市)生徒68人



る。生徒らは味のバランスや商品名、パッケージデザインに工夫を凝らす。29日に催される校内文化祭での販売を皮切りにマルト各店でも取り扱う予定。その他、ペットボトルキャップの回収やフードドライブも行っている。家庭クラブ会長の渡辺れ(さん(3年)は「多くのの人に手に取ってもらいたい。わきや福島の魅力を知ってほしい」と話している。

福島放送(KFB)「エア!」
午後4時台放送予定

使ったジェラートの商品化を進めている。市内や茨城県でスーパードを展開するマルトや乳製品製造・販売を手がける木村ミルクランドと連携して

①貧困をなくそう②飢餓をゼロに③すべての人に健康と福祉を④質の高い教育をみんなに⑤ジェンダー平等を実現しよう⑥安全な水とトイレを世界中に⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに⑧働きがいも経済成長も⑨産業と技術革新の基盤をつくろう⑩人や国の不平等をなくそう⑪住み続けられるまちづくりを⑫つくる責任つかう責任⑬気候変動に具体的な対策を⑭海の豊かさを守ろう⑮陸の豊かさを守ろう⑯平和と公正をすべての人に⑰パートナーシップで目標を達成しよう



うぶかの郷で水質調査を行う児童

ホタル生息地を清掃

2022(令和4)年に町からSDGs推進団体に登録された花育てる緑の少年団や探検者が古紙、



陸の豊かさを守ろう



住み続けられるまちづくりを

半田醸芳小(磐町児童86人)



を流れる川に幼虫を放流した。夜空に光を放ち舞う前の6月には、うぶかの郷で清掃や水質検査を実施した。ホタルの生育環境の保全に努めた。

福島放送(KFB)「エア!」
午後4時台放送予定

学んでいる。地元でホタルの保護に取り組んでいる「夢ほたる・こぼり」の協力を得て、4月には児童や保護者が町内のうぶかの郷

①貧困をなくそう②飢餓をゼロに③すべての人に健康と福祉を④質の高い教育をみんなに⑤ジェンダー平等を実現しよう⑥安全な水とトイレを世界中に⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに⑧働きがいも経済成長も⑨産業と技術革新の基盤をつくろう⑩人や国の不平等をなくそう⑪住み続けられるまちづくりを⑫つくる責任つかう責任⑬気候変動に具体的な対策を⑭海の豊かさを守ろう⑮陸の豊かさを守ろう⑯平和と公正をすべての人に⑰パートナーシップで目標を達成しよう



EVカートを作る生徒

「EVカート」を自作

電気科の3年生が電気で動く自動車「EVカート」を自作し、脱炭素社会の実現に向けてガソリンなど化石燃料に頼らない車両について学んでいる。



陸の豊かさを守ろう



エネルギーをみんなにそしてクリーンに

小高産業技術高(南相馬)生徒319人



る。県内の高校生らがEVカートで競う「相双EVレース大会」を同校が主催している。

福島放送(KFB)「エア!」
午後4時台放送予定

課題研究の一環として2022(令和4)年から始め、毎年モーターを作っている。今年は風力太陽光で発電した電気を充電できるバッテリーの仕組みを考えている。

①貧困をなくそう②飢餓をゼロに③すべての人に健康と福祉を④質の高い教育をみんなに⑤ジェンダー平等を実現しよう⑥安全な水とトイレを世界中に⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに⑧働きがいも経済成長も⑨産業と技術革新の基盤をつくろう⑩人や国の不平等をなくそう⑪住み続けられるまちづくりを⑫つくる責任つかう責任⑬気候変動に具体的な対策を⑭海の豊かさを守ろう⑮陸の豊かさを守ろう⑯平和と公正をすべての人に⑰パートナーシップで目標を達成しよう



地元の高齢者の前で流し踊りを披露する児童

敬老会で流し踊り

3 昨年、地域の高齢者との触れ合いを図ろうと、地元の敬老会に出演している。今年の敬老会は2日に開かれ、児童は地元伝統文化である飯坂小唄の流し踊りを披露した。

3 3、4年生の児童が、地域とのつながりに向き合っている。今年の敬老会は2日に開かれ、児童は地元伝統文化である飯坂小唄の流し踊りを披露した。

飯坂小（福島市児童71人）



①貧困をなくそう②飢餓をゼロに③すべての人に健康と福祉を④質の高い教育をみんなに⑤ジェンダー平等を実現しよう⑥安全な水とトイレを世界中に⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに⑧働きがいも経済成長も⑨産業と技術革新の基盤をつくろう⑩人や国の不平等をなくそう⑪住み続けられるまちづくりを⑫つくる責任⑬気候変動に具体的な対策を⑭海の豊かさを守ろう⑮陸の豊かさを守ろう⑯平和と公正をすべての人に⑰パートナーシップで目標を達成しよう

師に招き、三味線の音色に合わせた練習も行った。給食後の歯磨きの時間には、飯坂小唄の曲を流し、楽しんできた。敬老会では、飯坂小唄の流し踊りをはじめ、校歌を披露して出席者を喜ばせた。五十嵐澤さん（4年）は「みんなに元気を届けることができた」と話し、自身の祖母が出席していた小川穂佳さん（同）は笑顔が見えてうれしかった」と喜びを話した。

福島放送（FBS）
午後4時台放送予定
エリア！



より良い町になるように将来の姿を紙面にまとめた生徒

町の将来像を新聞に

11 全町の3年生68人は、総合的な学習の時間で「20年後の美里町」と題して、町の将来の姿をイメージした新聞を作った。地域課題を見つめ、地元会津美里町をより良くするために、町の教育長や職員、子ども園の園長から話を聞き、少子高齢化や人口減少など、町がどのような課題や問題を抱えているかを把握した。

11 全町の3年生68人は、総合的な学習の時間で「20年後の美里町」と題して、町の将来の姿をイメージした新聞を作った。地域課題を見つめ、地元会津美里町をより良くするために、町の教育長や職員、子ども園の園長から話を聞き、少子高齢化や人口減少など、町がどのような課題や問題を抱えているかを把握した。

高田中（会津美里町）生徒218人



①貧困をなくそう②飢餓をゼロに③すべての人に健康と福祉を④質の高い教育をみんなに⑤ジェンダー平等を実現しよう⑥安全な水とトイレを世界中に⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに⑧働きがいも経済成長も⑨産業と技術革新の基盤をつくろう⑩人や国の不平等をなくそう⑪住み続けられるまちづくりを⑫つくる責任⑬気候変動に具体的な対策を⑭海の豊かさを守ろう⑮陸の豊かさを守ろう⑯平和と公正をすべての人に⑰パートナーシップで目標を達成しよう

して活用）「シャッターに絵を描きアートの力でにぎわいづくり」などの課題を克服するためのアイデアを考え、原稿にまとめた。一人一人がタブレットのソフトを使って原稿を割り付け、紙面にレイアウトした。

佐藤大牙さん（3年）は「会津美里町は過疎化などの課題もあるが、魅力もたくさんある。観光客に発信したい」と話している。

福島放送（FBS）
午後4時台放送予定
エリア！



永崎海岸で鳴き砂について調べる児童

鳴き砂の海岸を守る

14 5年生が、総合的な学習の時間に「鳴き砂」について学んでいる。鳴き砂は浜に捨てられ、鳴き砂の条件であること（「キユッ」と小気味よい音）を調べる。鳴き砂を調査・研究している。鳴き砂を調査・研究している。鳴き砂を調査・研究している。

14 5年生が、総合的な学習の時間に「鳴き砂」について学んでいる。鳴き砂は浜に捨てられ、鳴き砂の条件であること（「キユッ」と小気味よい音）を調べる。鳴き砂を調査・研究している。

永崎小（いわき市）児童237人



①貧困をなくそう②飢餓をゼロに③すべての人に健康と福祉を④質の高い教育をみんなに⑤ジェンダー平等を実現しよう⑥安全な水とトイレを世界中に⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに⑧働きがいも経済成長も⑨産業と技術革新の基盤をつくろう⑩人や国の不平等をなくそう⑪住み続けられるまちづくりを⑫つくる責任⑬気候変動に具体的な対策を⑭海の豊かさを守ろう⑮陸の豊かさを守ろう⑯平和と公正をすべての人に⑰パートナーシップで目標を達成しよう

実際に音が鳴ることも確認した。現在は、他学年や教職員、保護者に伝えるための学習を行っている。

児童は年に2回、砂浜の清掃にも取り組む。全国的にも珍しい鳴き砂が確認できる永崎海岸を守る努力をしている。

木曾莉衣紗さん（10）は「近くに、鳴き砂があるとは知らなかった。海岸に限らずゴミを捨てないでほしい」と呼びかけている。

福島放送（FBS）
午後4時台放送予定
エリア！



食べ残しゼロを促すポスターや生産者情報を掲示し、フードロス削減につなげている

食品ロス減絵で訴え

12 つくる責任つかう責任

11 住み続けられるまちづくりを

い
な
わ
し
ろ
猪苗代小
猪苗代町児童32人

給食の食べ残し削減や資源物の再利用、町の課題解決などに取り組んでいる。給食に使う野菜などの生産者の情報、食べ残しゼロを促す児童のポスターを校内に掲示。児童は生産者や調理士と対話し、おいしい給食を食べてもらうための感謝の気持ちを込めて味わい、フードロス削減につなげている。給食後は、各クラスの給食委員会が調理室前には、おにぎり、お弁当、お菓子など、おいしい給食を食べてもらうための取り組みを行っている。

①貧困をなくそう②飢餓をゼロに③すべての人に健康と福祉を④質の高い教育をみんなに⑤ジェンダー平等を実現しよう⑥安全な水とトイレを世界中に⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに⑧働きがいも経済成長も⑨産業と技術革新の基盤をつくろう⑩人や国の不平等をなくそう⑪住み続けられるまちづくりを⑫つくる責任つかう責任⑬気候変動に具体的な対策を⑭海の豊かさを守ろう⑮陸の豊かさを守ろう⑯平和と公正をすべての人に⑰パートナーシップで目標を達成しよう



廃材を利用してみこし作りに取り組む生徒

廃材でみこし作り

12 つくる責任つかう責任

11 住み続けられるまちづくりを

もとみや
本宮一中
本宮市生徒33人

毎年秋に1年生から3年生までが文化祭「研究祭」の一環として、廃材を活用した、みこし作りに取り組んでいる。10月開催の「若い世代が触れる機会」に若い世代が触れる機会があるため、1980（昭和55）年から実施している。約1週間、1学年が、昼を完成させる。独創性を高めるため、モチーフは生徒が決める。学校側が用意した角材や古新聞を使い、思い思いのデザインに仕上げられる。みこしの他、大小の大阪・関西万博のキャラクター「ミヤクミヤ」や「ドラえもん」などをかたどったみこしを制作している。

①貧困をなくそう②飢餓をゼロに③すべての人に健康と福祉を④質の高い教育をみんなに⑤ジェンダー平等を実現しよう⑥安全な水とトイレを世界中に⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに⑧働きがいも経済成長も⑨産業と技術革新の基盤をつくろう⑩人や国の不平等をなくそう⑪住み続けられるまちづくりを⑫つくる責任つかう責任⑬気候変動に具体的な対策を⑭海の豊かさを守ろう⑮陸の豊かさを守ろう⑯平和と公正をすべての人に⑰パートナーシップで目標を達成しよう



仕分けしたコーヒー豆を焙煎する生徒

焙煎コーヒードでPR

11 住み続けられるまちづくりを

かわがき
川俣高
川俣町生徒54人

地域の課題解決に取り組む地域協働推進校に位置づけられ、地域創生の核となる人づくりを進めている。普通科商業型コースの生徒17人が地域の魅力を、幅広い層にアピールするために、ドリフ形式のオリジナル焙煎コーヒードに取り組み中。商業の授業で「町をPRする」をテーマに話し合った。町内の商店街や道の駅かかわたを訪れ、市場調査した結果、日持ちする手頃な価格の土産が求められていることが分かった。生徒はコーヒードの歴史や焙煎方法を洋菓子店のオーナーによる講義で学び、何度も試行錯誤して商品化にこぎ着けた。パッケージデザインも生徒自ら担当した。

①貧困をなくそう②飢餓をゼロに③すべての人に健康と福祉を④質の高い教育をみんなに⑤ジェンダー平等を実現しよう⑥安全な水とトイレを世界中に⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに⑧働きがいも経済成長も⑨産業と技術革新の基盤をつくろう⑩人や国の不平等をなくそう⑪住み続けられるまちづくりを⑫つくる責任つかう責任⑬気候変動に具体的な対策を⑭海の豊かさを守ろう⑮陸の豊かさを守ろう⑯平和と公正をすべての人に⑰パートナーシップで目標を達成しよう

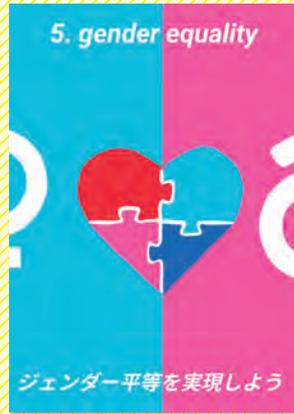


作品ギャラリー

みなさんから寄せられた **SDGs未来新聞** の作品を紹介します(一部)

テーマ 「未来をよくするために、私たちにできること」





作品ギャラリー

みなさんから寄せられた **SDGsポスター** の作品を紹介します (一部)

テーマ 「未来をよくするために、私たちにできること」



ふくしまSDGsプロジェクトは
協賛パートナーの皆様のご支援をいただいて
運営しています



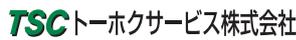
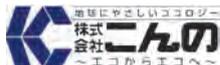
すべてを地域のために
東邦銀行



KFB 福島放送

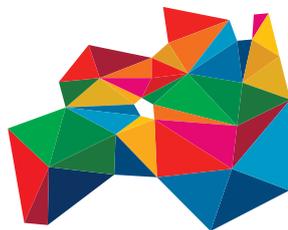


あなたの街の親近バンク



株式会社アサカ理研 株式会社サン・ベンディング福島 東洋ワークセキュリティ株式会社 日本生命保険相互会社福島支社 株式会社日和田ショッピングモール
株式会社日黒工業商会 株式会社リビングソーラー 若松ガス株式会社 学校法人若松幼稚園

協賛パートナーの詳細については公式WEBサイトをご覧ください。



🔍 ふくしまSDGs

<https://sdgs.fukushima.jp>



ふくしまSDGsプロジェクト推進コンソーシアム

- 構成団体 日本青年会議所東北地区福島ブロック協議会、福島県商工会議所連合会、福島県商工会連合会、福島県ユニセフ協会、福島大学、JAグループ福島、福島民報社(事務局)
- 賛同・後援 福島県、福島県教育委員会
- 協 力 会津大学、福島県立医科大学、福島学院大学・福島学院大学短期大学部、桜の聖母短期大学、日本大学工学部、奥羽大学、郡山女子大学・郡山女子大学短期大学部、東日本国際大学・いわき短期大学、福島工業高等専門学校、福島県生活協同組合連合会
- 賛同自治体 福島県内59市町村

